

ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報等のみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。2024年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

### No1778長期継続変動 CH32特異変動 断続的に弱く再出現→推定発生時期修正 2/10.7~10.8 静穏化の場合は2/16±2 発生の可能性 今後の観測で修正の可能性も有

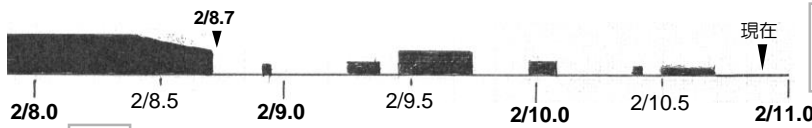


図1 CH32 特異変動出現状況簡略図

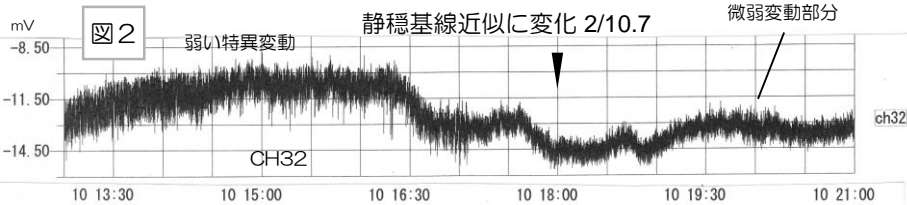


図2

凡例  
— 静穏基線  
■ 特異変動

◆2/8.7に静穏化の可能性としたCH32の特異変動は、左図1のとおり弱い特異

変動が断続的に再出現し、2/13±発生の可能性は否定されます。

◆CH32は左図2のとおり、本日2/10の夜21時までの基線ですが、基線は正常基線近似です。ただ若干微弱な変動が見える部分があります。2/10.7を静穏化とした場合は2/16±2発生の可能性が示唆されます。より静穏基線になる可能性もあり得ます。静穏化時期と推定される発生時期は次のとおりです。

2/10.7静穏化の場合=2/16.4±2

2/11.4静穏化の場合=2/17.4±2

2/12.2静穏化の場合=2/18.4±2

(各午前中発生で計算)上記の可能性が計算されます。地殻大型地震のため、完全な静穏基線にはならない可能性もあり、2/16±2発生の可能性は否定できません。完全静穏確認後情報を出すべきですが早い段階でお知らせすべきと配信させて頂きました。

◆図3のとおり、12/25極大としたものは、11/1.5からの変動の一部で極大ではないと修正します。単純にStage-28は2024.11/1.5極大を示し、Stage-29に移り、Stage-29は2025.1/25極大を示し、現在はStage-30認識です。

◆図2の基線後半部より静穏化した基線が観測された場合、または変動が再出現した場合は続報でご報告させて頂きます。

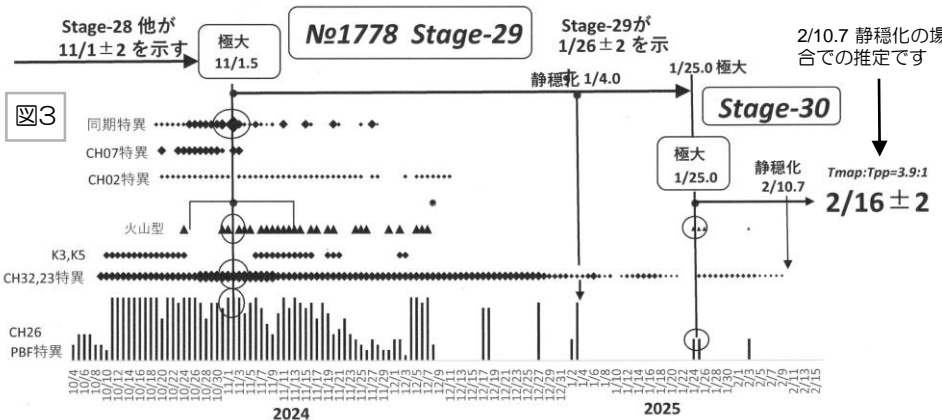
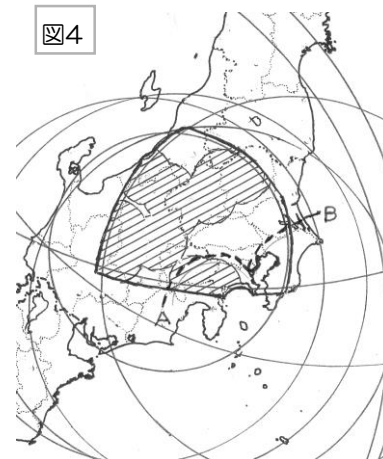


図3



●推定領域：図4の太線領域内=大枠推定領域  
図4斜線域=可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で余震を含まない大型地震の断層長 Lkm  
が合計で約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性  
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：2月16日±2 (但し2/10.7静穏化の場合の推定)  
※特異変動再出現または今後より静穏化の場合は2/17以降となります。続報で修正

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震  
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

A~B弧線以南の可能性は低い